

カードで洋書を買う方法

菊地時夫*

最近の円高で、個人輸入が流行っているとのことですが、我々研究者にとって輸入したいものの No. 1 は、洋書ではないでしょうか。洋書の個人輸入は意外と簡単であることを御存知でしょうか。しかも、支払いにクレジットカードを使えば、送金の手間も全く要らないのです。以下に私がどのようにして一冊の本を「輸入」したかを書いてみます。

東大の木村竜治先生から“GRAVITY CURRENTS” (by J.E. Simpson) という本を御紹介頂いたのは昨年11月下旬のことでした。

「実によい本なので目次のコピーを同封」して頂いたおかげで、出版社、販売元などの住所を知ることができました。そこで、注文の手紙を書いたのですが、「この程度の英語でも通じます」という意味でそのまま載せます。クレジットカードが使えるものと仮定して手紙を書くわけですが、米国の場合はまず100% 使えると思ってよいでしょう。但し、使えるのは、VISA か MASTER CARD, AMEX など、国際カードと呼ばれているものに限ります。

さて、11月28日に注文を出してちょうど1か月後、12月28日になって送り状が届きました。ここで初めて、本の価格が\$61.95、船便の送料が\$3.71であったことが分かりました。また、本の送り主の住所は SOMERSET NJ となっていました。米国の出版社は部門によって住所が全く違うことが多くて、電話で注文しようとしても話が通じないことがあるようです(米国在住経験の有る人の談による)。私の注文も、New York からこの住所へ転送されたのでしよう。

ついでに、最近では郵便の転送サービスを行うところがあるらしくて、この送り状も香港経由で来ていました。この送り状について何か疑問があったりして香港の住所へ手紙を出すかと宛先人不在で返って来るでしょう。逆に、注文などを取り次ぐだけの住所が雑誌などに出て

November 27, 1987

Halsted Press:
John Wiley & Sons
605 Third Avenue, New York, NY 10158
U.S.A.

Dear Sir:

Please send me one copy of the book entitled **GRAVITY CURRENTS: In the Environment and the Laboratory** by John E. Simpson (1987). I assume that you accept VISA. If you not, however, please send me a note on the price to cover the surface mail charge. I will be ready to send a check.

Sincerely,

GRAVITY CURRENTS	\$
Surface mail charge.....	+ \$
<hr/>	
Total	\$

不明なので空欄にした。↑

VISA card number.....XXXX XXXX XXXX
good thru11/89
embossed name.....TOKIO KIKUCHI

サイン
Tokio Kikuchi
Dept. of Physics
Kochi University
Akebono-cho, Kochi 780
Japan

いることもあって、ちょっと古い記事に載っている住所に出したら、転送期限切れで返ってきたこともありました。

次に、クレジット会社からの計算書が、1月25日過ぎにやってきました。これは前の月に使った分だけ毎月くるものですが、この計算書で、クレジット会社が適用する換算レートが分かります。この場合は、128.466円/\$で、8,435円の請求となっていました。他の使用分と一

* Tokio Kikuchi, 高知大学理学部。

緒に銀行口座から引き落とされることとなります。

かんじんの本がまだ到着しないのでちよっと不安になりますが、なにしろ船便なので我慢して待つことにします。「船便は、忘れた頃にやってくる……」今回の本が着いたのは2月3日でした。どちらかといえば早い方です。木村先生の手紙にあったように「実によい本」でした。

送り状は、現物に付いて来ることもあります。また、一度に沢山買うときは、通関料が必要なこともあります。たいてい100円以下で、配達のときに郵便屋さんへ払います。

クレジットによる通信販売は日本ではまだ少ないよう

ですが、ひとつにはトラブルを恐れてのことのようです。今までにもトラブルが全く無かった訳ではありませんが、手紙を出して抗議したら、払いすぎた金もちゃんと戻って来ました。

地方に勤務していると大きな洋書店も無く、手にとって内容を確認して買うことは不可能に近いことですが、通信販売ですと、大都市にいるのと全く同様に新しい本に接することができます。最後に、ここに書いた方法は「インターフェイス」という雑誌に載っていた、「外国からのソフトウェアの買い方」という記事に基づいて、私が6年程前から時々利用している方法であることを付け加えておきます。

第10回風工学シンポジウム開催と発表論文の募集についてのお知らせ

<主旨> 構造物の耐風性など風工学に関する気象・土木・建築・電気の各分野における研究成果と技術の交流を目的として、標記シンポジウムを下記により開催することになりました。

発表論文をふるってご応募下さいますようお願いいたします。

<共催> 日本学術会議災害工学研究連絡委員会風工学専門委員会、土木学会、日本気象学会、日本建築学会、日本鋼構造協会(幹事学協会)、電気学会、日本風工学会

開催期日：昭和63年12月1日(木)～2日(金)

会場：中央大学理工学部校舎5号館
(東京都文京区春日 1-13-27)

発表論文の募集

(1) 課題

課題はつきによるものとし、内容は独創性のあるものでなければならない。

(a) 自然風の性質、(b) 環境と自然風、(c) 強風災害、(d) 風圧・空気力および構造物の周りの流れ、(e) 風による構造物の応答、(f) 耐風設計、(g) 計測方法・風洞実験法

(2) 応募方法

(a) 論文提出希望者は、昭和63年6月30日(木)までに、下記の項目について記入のうえ、A4版用紙に題

目、内容概要を邦文400字程度で記して、下記に提出する。

① 所属学協会、② 氏名(連名の場合は発表者に○印を付ける)、③ 勤務先・職名、④ 連絡先、⑤ 論文名、⑥ 上記(1)の課題(a)～(g)を記入

(b) 発表論文の執筆

① 論文提出希望者には執筆要領および所定の原稿用紙を送付する。ページ数は6ページ以内(英文概要を含む)の偶数ページとする。

② 提出原稿はワープロ打ち(タイプ打ちも可)とする。

③ 論文原稿は、昭和63年8月15日(月)までに下記に提出する。

(c) シンポジウム運営委員会は、発表論文の採否を昭和63年9月初旬までに決定し応募者に通知する。

注) 今回から論文の応募方法が変わりますのでご注意ください。論文はフルペーパーで提出下さい。

(3) 応募・論文提出・問い合わせ先

〒100 東京都千代田区丸の内 3-3-1

新東京ビル 848 日本鋼構造協会事務局

TEL. 03-212-0875 Fax. 03-212-0878

「第10回風工学シンポジウム運営委員会」

(担当 服部三千彦、寺尾幹人)